

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ごあいさつ

顕彰会発足にあたり

会長 山下智之

賀茂真淵翁は、江戸時代中期の国学者で、荷田春満、本居宣長、平田篤胤と共に「国学の四大人（しうし）」とされ、その門流を「県居（あがたい）学派」、あるいは「県門（けんもん）」と称しました。

真淵翁は、古代日本人の精神性は「明き、直き、浄き誠の純粹な心にある」と確信し、自然への心情や祈りこそが人間本来のあるべき姿であるとして、『万葉集』などの古典を通じて古代日本人の精神を研究し、和歌における古風の尊重から万葉主義を主張して、『歌意考』『万葉考』『国意考』『祝詞考』にひまなび』『文意考』『語意考』『冠辞考』『神楽考』『源氏物語新釈』『ことばもくろくさ』などを著し、多くの弟子を育て国学の成立に尽力しました。

縣居神社は真淵翁を祀る唯一の神社で、「学徳成就の神」として全国的に知られています。

私どもは真淵翁のご遺徳を顕彰し、生誕祭や神社境内の整備、その他諸事業を運営してまいります。皆さまには是非ともこの趣旨にご賛同賜わり、ご指導ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

九月十三夜 縣居にて 連作五首

歌碑

九月十三夜 縣居にて

賀茂真淵生誕地に昭和 56 年市制 70 周年記念として建つ



雁の鳴き渡る六時頃から始まった集いは、十三夜の清き月夜に宴もたけなわ、やがて秀月はいつしか中天より西に傾きはじめる、当夜の状景が絵のようだと書かれる。

今年の九月十三夜は十月十三日（木）です。

秋の夜の ほがらほがらと 天の原
てる月影に かりなきわたる
こほろぎの 鳴くやあがたの わが宿に
月影清し とふ人もがな
あがたるの ちふの露原 かき分けて
月見に来つる 都人も
こほろぎの まちよろこべる 長月の
きよき月夜は ふけずもあらなん
にほどりのかつしか早稲の 新しぼり
くみつつをれば 月かたぶきぬ
(注)にほどり||かつしか(葛飾)にかかるまくらことば

五首いづれも万葉調の歌で、真淵の和歌観が見事に実を結んだ代表作。真淵の業績の一つに「万葉調の歌の復興」がある。「古へは、思ふこと多きときは長歌を詠めり、また短歌も数多くいひて心をはたせしも有」と記している。この連作五首をセットして、真淵の深い想いを表現した秀歌として高く評価されている。



賀茂真淵像

縣居神社拝殿

元禄 10 年 (1697) 伊場に生まれる
明和 6 年 (1769) 江戸で没す

あがたい 『縣居』とは

賀茂真淵は 68 歳の明和元年 7 月、江戸日本橋浜町に居を移し縣居と号した。縣居とは、ふるさと浜松に思いをはせた田舎住まいの意。

地図



賀茂真淵翁遺徳顕彰会ホームページを開設いたしました。

<http://kamonomabuchi.com>